

# 出家功德御書

弘安二年五月 五八歳

近日誰やらん承りて申し候は、内々げんぞく還俗の心中出来候由風聞候ひけるはまこと実事にてや候らん、そらごと虚事にてや候らん。心こころもと元なく候間一筆啓せしめ候。

凡そ父母の家を出でて僧となる事は、必ず父母を助くる道にて候なり。出家功德經に云はく「高さ三十三天に百千のとうば塔婆を立つるよりも、一日の出家の功德は勝れたり」と。されば其の身は無智無行にもあれ、かみをそり、袈裟をかくる形には天魔も恐れをなすと見えたり。大集經に云はく「頭を剃り袈裟を著つくれば持戒及び毀戒も天人供養すべし。則ち仏を供養するにな為りぬ」云云。又一經の文に、有る人海邊通をとる、一人の餓鬼あって喜び踊れり。其の謂はれを尋ぬれば、我が七世の孫今日出家になれり。其の功德にひかれて出離生死せん事喜ばしきなりと答へたり。されば出家と成る事は我が身助かるのみならず、親をも助け、かみ上無量の父母まで助かる功德あり。されば人身をうくること難く、人身をうけても出家と成ること尤も難し。

然るに悪縁にあふて還俗の念起こる事浅ましき次第なり。金を捨て、石をとり、薬を捨て、毒をとるが如し。我が身悪道に墮つるのみならず、六親眷属をも悪道に引かん事不便の至極なり。其の上在家の世を渡る辛勞一方ならず、やがて必ず後悔あるべし。只親のなされたる如く、道をちがへず出家にてあるべし。道を違へずらせつによ十羅刹女の御守り堅かるべし。道をちがへたる者をば、神も捨てさせ給へることわり理にて候なり。大勢至經に云はく「衆生に五つの失有り、必ず悪道に墮ちん。一つには出家還俗の失なり」と。又云はく「出家の還俗は其の失五逆に過ぎたり」文。五逆罪と申すは父を殺し、母を殺し、仏を打ち奉りなんどする大いなる失を五つあつ聚めて五逆罪と云ふなり。されば此の五逆罪の人は、一中劫の間無間地獄に墮ちて浮かぶ事なしと見えたり。然るに今宿善薰発して出家せる人の、還俗の心付きて落つるならば、彼の五逆罪の人よりも、罪深くして大地獄に墮つべしと申す經文なり。能く能く此の文を御覽じて思案あるべし。

我が身は天よりもふらず、地よりも出でず、父母の肉身を分けたる身なり。我が身を損ずるは父母の身を損ずるなり。此の道理をわきま弁へて親の命おおせに随ふを孝行と云ひ、親の命に背くを不孝と申すなり。所詮心は兔も角も起これ、身をば教への如く一期出家にてあらば、自らみょうが冥加も有るべし。此の理ことわりに背きて還俗せば、仏天の御罰を蒙り、現世には浅ましくなりはて、後生には三悪道に墮ちぬべし。能く能く思案あるべし。身は無智無行にもあれ、かたち形出家にてあらば、里にも喜び、某も祝われ著しゅうじゃくたるべし。況んや能き僧にて候はんをや。委細の趣、後音を期し候。

日 蓮 花 押